

Competency of New Japanese Dentist の作成(中間報告)

歯学教育FD/IT活用研究委員会

領域	領域 I: 専門的職業意識 (professionalism)			
	Professional behavior			
大項目	卒業時、歯科医師は、最新の知識を持ち、広範な歯科医療の領域を理解し、研究、探究、分析、問題解決、計画、コミュニケーション、発表、およびチーム能力を含む幅広い技術が実施でき、さらに歯科診療におけるそれらの関連性を理解していなければならない。			
中項目	欧州に於ける歯科医師のコンピテンシー Competences for the European dentist	新しいアメリカの一般的な歯科医師のコンピテンシー Competencies for the new general dentist (ADEA)	新しい日本の歯科医師のコンピテンシー(資格・能力・力量など) Competency for New Japanese Dentist	
			① コアカリキュラム、臨床実習、国試出題基準、教授要綱	② コンピテンシー(能力・手腕・力量・技量・熟練度・適任性など)
	(1.1) 患者に対し適切なケアの態度を示すことができる。	1.1 新しい医療動向を適切に評価し、整理統合する。	コア: 臨実: 国試: 教要:	歯科医師として、常に患者に適切な歯科医療を行う姿勢を示すことができる。
	(1.2) 歯科チームの全員に適切な専門的態度を示すことができる	1.2 批判的思考と問題解決スキルを利用する。	コア: 臨実: 国試: 教要:	歯科チームのメンバーに、歯科医師として適切な態度がとれる。
	(1.3) 患者のケアに関連する社会的、心理的知識がある。	1.3 エビデンスに基づく診療のために、臨床経験と患者の価値感によって最善の研究アウトカムを評価し取り込む。	コア: 臨実: 国試: 教要:	患者のケアに関連する社会的、心理的知識を持っている。
	(1.4) ハイレベルの臨床能力およびエビデンスに基づく知識を維持するために、年単位の生涯教育プロセスに関連するcontinuing professional development (CPD)を求めることができる。これには、CPDのlogbookを使用し、すみやかに行われるべきである。		コア: 臨実: 国試: 教要:	生涯学習、研修、教育を継続する意識がある。
	(1.5) 特殊な基準でまた感染予防の観点で、安全な作業環境を管理および維持することができる。		コア: 臨実: 国試: 教要:	感染予防および医療安全に基づく、歯科医療環境管理を行うことができる。
	(1.6) 歯科医師としての診療能力に及ぼす自分自身の健康の重要性およびその影響の知識および意識を持っている(人間工学および職業性疾患)。		コア: 臨実: 国試: 教要:	自己健康管理の重要性を理解し、その実践ができる。
	(1.7) 健康や安全に関する歯科チームの他のメンバーと話し合うことができる。		コア: 臨実: 国試: 教要:	歯科チームのメンバーと良好なコミュニケーションができる。

領域	ethics and jurisprudence (倫理学および法律学)			
	Professional behavior			
大項目	卒業する歯科医師は、個々の患者や集団のケアの管理を含むモラルや倫理的責任の知識や理解を持ち、歯科医療にかかわる最近の法律知識を持っていなければならない。			
中項目	欧州に於ける歯科医師のコンピテンシー Competences for the European dentist	新しいアメリカの一般的な歯科医師のコンピテンシー Competencies for the new general dentist (ADEA)	新しい日本の歯科医師のコンピテンシー(資格・能力・力量など) Competency for New Japanese Dentist	
			① コアカリキュラム、臨床実習、国試出題基準、教授要綱	② コンピテンシー(能力・手腕・力量・技量・熟練度・適任性など)
	(1.8) 歯科医療に関連した倫理的考え方の知識があり、個人的および専門的清廉、正直および信頼性を持って診療することができる。		コア: 臨実: 国試: 教要:	医療倫理学にのっとり、患者に尊厳をもって歯科医療ができる。 歯科医師法、医療法等法律知識がある。
	(1.9) すべての患者に人間のおよび温かみのあるケアを施すことができる。		コア: 臨実: 国試: 教要:	人間として、患者中心の歯科医療に従事できる。
	(1.10) 患者の権利、とくに、守秘およびインフォームド・コンセント、および患者の義務についての知識をもち、理解をしている。		コア: 臨実: 国試: 教要:	
	(1.11) 歯科医師は、いつも患者に最上の質のケアを施すように努力するという知識および意識を持っている。		コア: 臨実: 国試: 教要:	
	(1.12) 各患者個々の要望、目標および価値観に配慮し、最上の治療と矛盾せず、包括的口腔健康ケアに一致した治療を選択肢の中から選択し、それを優先することができる。		コア: 臨実: 国試: 教要:	
	(1.13) 患者がケアの中心であり、診断、治療計画および処置を含むすべての相互作用は患者のケアのような患者の最上の関心に焦点を当てる必要があることを知っている。		コア: 臨実: 国試: 教要:	
	(1.14) 性、背景や機会の相違、言語および文化に関する偏見を持つことなく患者や同僚を尊敬することができる。		コア: 臨実: 国試: 教要:	
	(1.15) 自分自身の限界を知り、無能で、障害がありあるいは非倫理的な同僚およびその患者を助けるための適切なこうどうをとることができる。		コア: 臨実: 国試: 教要:	
	(1.16) すべての歯科医療行為にかかわる司法、立法および行政上のプロセス、および政策を知っている。		コア: 臨実: 国試: 教要:	
	(1.17) 会計検査および臨床的ガバナンス(管理)ができる。		コア: 臨実: 国試: 教要:	

領域	領域 II コミュニケーションおよび対人関係スキル			
	Professional behavior			
大項目	新しく卒業する歯科医師は、患者さんとその家族や同僚、そして他の保健医療専門職と効果的にコミュニケーションする能力をもつ必要がある。			
中項目	欧州に於ける歯科医師のコンピテンシー Competences for the European dentist	新しいアメリカの一般的な歯科医師のコンピテンシー Competencies for the new general dentist (ADEA)	新しい日本の歯科医師のコンピテンシー(資格・能力・力量など) Competency for New Japanese Dentist	
			① コアカリキュラム、臨床実習、国試出題基準、教授要綱	② コンピテンシー(能力・手腕・力量・技量・熟練度・適任性など)
	(2.1) 歯科治療を効果的にすすめられるよう患者-歯科医師の関係を確立できる。	2.1 歯科ケアの提供において倫理的、法的基準を適用する。	コア: 臨床: 国試: 教要:	
	(2.2) 歯科的ケアの提供が促進されるような行動科学や人種多様性や性別などの要因をふまえてコミュニケーションの知識や患者管理(マネージメント)における心理的発達役割の知識をもつ。	2.2 自分のコンピテンシーの範囲で診療を行い、必要に応じて、専門家の同僚にコンサルトし、あるいは照会する。	コア: 臨床: 国試: 教要:	
	(2.3) 患者の期待(ニーズや要求)と歯科ケアの目標を識別する。		コア: 臨床: 国試: 教要:	
	(2.4) 歯や口腔および顔面領域の疾患や障害についてその発病やあるいは疾患を長引かせる心理的、社会的要因を同定でき、必要に応じて、診断、治療あるいは他科に紹介ができる。		コア: 臨床: 国試: 教要:	
	(2.5) 患者さんや保健医療専門職の双方と情報や知識の共有が口頭や記述できる。これには交渉できることや建設的な批判を与えたり、受けたりすることも含まれる。		コア: 臨床: 国試: 教要:	
	(2.6) 自分自身、患者さん、歯科医療チームへ適切にストレスマネジメントの原則を適用する。		コア: 臨床: 国試: 教要:	
	(2.7) 歯科医療チームの他のメンバーと共(共同して)に働く。		コア: 臨床: 国試: 教要:	

領域	領域 II コミュニケーションおよび対人関係スキル			
	基礎的な知識、情報の取扱い、および批判的思考			
大項目	基礎医学、医療技術および臨床医科学卒業時に歯科医は、歯科と重要な関わりのある正常状態と病的状態を理解するために基礎医学、医療技術および臨床医科学の十分な知識とを理解力を持ち、この知識を医療場面に対応する能力を身につけなければならない。			
中項目	欧州に於ける歯科医師のコンピテンシー Competences for the European dentist	新しいアメリカの一般的な歯科医師のコンピテンシー Competencies for the new general dentist (ADEA)	新しい日本の歯科医師のコンピテンシー(資格・能力・力量など) Competency for New Japanese Dentist	
			① コアカリキュラム、臨床実習、国試出題基準、教授要綱	② コンピテンシー(能力・手腕・力量・技量・熟練度・適任性など)
	(3.1) 歯科医としての科学的基盤、すなわち広範な基礎歯科医科学、知識獲得の手法、科学的方法およびエビデンスの評価などを含む知識を得、理解しなければならない。この知識を用いて新知見を説明でき、臨床に適切な利益をもたらすことができること。	1.1 新しい医療動向を適切に評価し、整理統合する。 1.2 批判的思考と問題解決手法を利用する。 1.3 臨床経験と患者の価値観により、エビデンスに基づく診療をするため、最善の研究成果を評価し吸収する。	コア: B-1-1)問題発見・解決能力, 2)学習の在り方; C-1健康の概念; D-1生命の分子的基盤, 2人体の構造と機能, 4病因と病態, 5生体と薬物; 国試: 必修全般, 総論(III)人体の正常構造と機能, (IV)歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能, (V)発生、成長、発達、加齢, (VI)病因、病態, (VII)主要症候, (VIII)診察, (IX)検査, (X)治療, (XI)歯科材料・歯科医療機器	
	(3.2) 医療行為における交差感染を防ぐための消毒、滅菌および感染予防方法の科学的原理の知識を持たねばならない。	6.7 すべての臨床手順に対してユニバーサルな感染防御ガイドラインを適用する。	コア: D-3感染と免疫; 教要: 微生物学分野(感染と免疫); 感染症の予防・診断・治療	
	(3.3) 歯科材料の科学、およびその限界、その使用に際しての口腔環境の変化を察知できる知識を持たねばならない(生体適合性)。		コア: E-1素材と所要性質, 2形成法と形成材料 国試: 必修-15-AC歯科材料; 総論-XI-1生体材料の科学, 2診療用機器, 3切削・研削・研磨, 4印象材, 5模型材, 6歯科用ワックス, 7予防填塞・形成修復・歯内療法材料, 8歯冠修復材料, 9義歯材料, 10レジン形成技術・機器, 11セラミックスの形成技術・機器, 12金属の形成技術・機器, 13歯科接着材料・機器, 14合着・接着・仮着材, 15歯科矯正材料, 16歯周治療・口腔外科・インプラント材料 教要: 歯科理工学分野(生体材料・歯科材料)	
	(3.4) 電離放射線の危険性と生体組織に及ぼす影響、および放射線照射、防御および被曝線量削減を含む放射線使用に係わる規則に関する知識を持たねばならない。		コア: F-1-2)画像検査 臨床: 水準1~4 国試: 必修-11-E画像検査; 総論-IX-2画像検査、X-8放射線治療 教要: 歯科放射線学分野。教授項目: 放射線とその防護。	
	(3.5) 感染、炎症、免疫システムの異常、変性、腫瘍、代謝異常および遺伝疾患などを含む諸疾患のプロセスに関する知識を持たねばならない。		コア: D-4, F-2-4), 国試: 必修-11-C, F; 総論-VI-1~13, 各論-II-(I)-1, 2, IV-(1)-1 教要: 微生物学分野(感染と免疫)。病理学分野(病因と病態)教授項目: 染色体、遺伝子および発生の異常。炎症、感染症、免疫異常。腫瘍。生科学分野(生命の分子的基盤)。教授項目: 遺伝子と遺伝。炎症・免疫の分子メカニズム。がん細胞の特性と発癌メカニズム。	

(3.6) 主要器官システム失調における病的な特徴と口腔症状に精通し、全身疾患における口腔症状に関する十分な知識を持たねばならない。	コア: D-2 人体の構造と機能	国試: 必修-9 主要な症候, 総論-(VII)- 1 全身の症候, 2 歯・口腔・顎・顔面の症候, 各論-IV-(IV)-1 先天異常と変形を主徴とする疾患, 2 軟組織の損傷, 3 軟組織の炎症, 4 軟組織に発生する嚢胞
	国試: 必修-9 主要な症候, 総論-(VII)- 1 全身の症候, 2 歯・口腔・顎・顔面の症候, 各論-IV-(IV)-1 先天異常と変形を主徴とする疾患, 2 軟組織の損傷, 3 軟組織の炎症, 4 軟組織に発生する嚢胞	
(3.7) 予防、診断および管理を容易にするために、口腔疾患の発症と病因に関する(個々および公衆衛生的)十分な知識を持たねばならない。	コア: F-1-6) 口腔保健, F-2-3) 口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常, F-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患,	国試: 必修-3 予防と健康管理・増進, 総論-(II)- 10 疫学とその応用, 11 感染症対策, 各論-I 歯科疾患の予防・管理,
	国試: 必修-3 予防と健康管理・増進, 総論-(II)- 10 疫学とその応用, 11 感染症対策, 各論-I 歯科疾患の予防・管理,	
	国試: 必修-3 予防と健康管理・増進, 総論-(II)- 10 疫学とその応用, 11 感染症対策, 各論-I 歯科疾患の予防・管理,	国試: 必修-3 予防と健康管理・増進, 総論-(II)- 10 疫学とその応用, 11 感染症対策, 各論-I 歯科疾患の予防・管理,
	国試: 必修-3 予防と健康管理・増進, 総論-(II)- 10 疫学とその応用, 11 感染症対策, 各論-I 歯科疾患の予防・管理,	国試: 必修-3 予防と健康管理・増進, 総論-(II)- 10 疫学とその応用, 11 感染症対策, 各論-I 歯科疾患の予防・管理,

コアカリキュラム: 歯学教育モデル・コア・カリキュラム ー教育内容ガイドラインー 平成19年度改訂版

臨床実習内容: 歯学教育モデル・コア・カリキュラム ー教育内容ガイドラインー 平成19年度改訂版、臨床実習内容

国試出題基準: 平成22年度歯科医師国家試験出題基準

教授要綱: 歯科大学長・歯学部長会議: 歯科医学教授要綱(平成19年改訂)

領域	領域 IV: 診療情報収集			
	professional behavior			
大項目	患者の口腔および歯科的状态の包括的な病歴の獲得と記録 卒業時、歯科医師は包括的な病歴と患者の口腔および歯科的状态の病歴を獲得し、記録する能力を有していなければならない。これには、あらゆる年齢の患者の口腔状態を評価するための生物学的、医学的、心理学的、そして社会的な情報が含まれる。歯科医師は、さらに、適切な診察、所見の解釈、そして、さらなる検査を準備する能力を有していなければならない。			
中項目	欧州に於ける歯科医師のコンピテンシー Competences for the European dentist	新しいアメリカの一般的な歯科医師のコンピテンシー Competencies for the new general dentist (ADEA)	新しい日本の歯科医師のコンピテンシー(資格・能力・力量など)	Competency for New Japanese Dentist
			① コアカリキュラム、臨床実習、国試出題基準、教授要綱	② コンピテンシー(能力・手腕・力量・技量・熟練度・適任性など)
(4.1) 患者の主訴の確認と包括的な病歴の一部としての現病歴の獲得ができる能力を有していなければならない。			コア: B 歯科医師としての基本的な態度 B-2 対人関係能力 B-2-2) 医療面接 F 臨床歯学教育 F-1 診療の基本 F-1-1) 基本的診療技能	
(4.2) 食事分析を行う能力を有していなければならない。			コア: F 臨床歯学教育 F-1-6) 口腔保健 F-1-6)-(2) 歯科保健指導 ④適切な食事指導(栄養指導)を実施できる。	
(4.3) 患者記録の作成と正確な患者治療記録の記載を維持する能力を有していなければならない。			コア: A 医の原則 A-5 歯科医療における安全性への配慮と危機管理 A-5-1) 安全性の確保 ④医療現場における報告・連絡・相談と記録の重要性や、診療録改風の違法性について説明できる。 C 社会と歯学 C-4-3) 保健医療情報 ①保健医療情報の取扱いと情報のセキュリティーを説明できる。【診療情報(診療録等)を含む。】②医療情報の開示に関する注意点を説明できる。 F 臨床歯学教育 F-1-1) 基本的診療技能 ⑩的確な診察と検査から得られた所見を適切に診療録に記載できる。	
(4.4) (不安を含め)患者の異常な行動を識別する能力を有していなければならない。			コア: B 歯科医師としての基本的な態度 B-2-2) 医療面接 ④患者の不安、不満や表情・行動の変化に適切に対応できる。	
(4.5) 患者の全身的健康状態と関連する疑問を解くために、適切な書面による医療相談あるいは紹介を行う能力を有していなければならない。			コア: B 歯科医師としての基本的な態度 B-2-2) 医療面接 ⑥必要に応じて、他の医療機関への適切な紹介を行うための手続きを説明できる。	
(4.6) バイタルサインのアセスメントを含め、患者にふさわしい口腔外および口腔内の診査を行い、それらの所見を記録する能力を有していなければならない。			コア: F 臨床歯学教育 F-1 診療の基本 F-1-3) 歯科麻酔の基本 F-1-3)-(1) 全身管理 ①バイタルサインを列挙し、説明できる。 F 臨床歯学教育 F-1 診療の基本 F-1-1) 基本的診療技能 ⑨問診、視診、触診および打診等によって患者の現症を的確に捉えることができる。 ⑩的確な診察と検査から得られた所見を適切に診療録に記載できる。	
(4.7) 包括的な歯科的、歯周的、粘膜的診察を完了し、記録する能力を有していなければならない。			コア: F 臨床歯学教育 F-3 歯と歯周組織の常態と疾患 F-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 F 臨床歯学教育 F-2 口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 F-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患	
(4.8) 歯科治療に関連する放射線撮影を行い、結果を解釈する能力を有していなければならない。そして、歯科と関係のある他形式の医用画像の知識を持っていないなければならない。			コア: F 臨床歯学教育 F-1 診療の基本 F-1-2) 画像検査	
(4.9) 電離放射線の管理に堪能でなければならない。			コア: F 臨床歯学教育 F-1 診療の基本 F-1-2) 画像検査	
(4.10) 歯科放射線技術の根底にある原理に精通していなければならない。			コア: F 臨床歯学教育 F-1 診療の基本 F-1-2) 画像検査	

	(4.11) 適切な臨床検査および他の診断的方法と検査の知識を持ち、それらの診断的信頼性と妥当性を理解し、結果を解釈できなければならない。		コア:F-1 診療の基本 F-1-1) 基本的診療技能 ⑮各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。	
	(4.12) 診断模型の作成、付着および咬合面間記録(インターオクルーザルレコード)を作成する能力を有していなければならない。		コア:F 臨床歯学教育 F-1 診療の基本 F-1-1) 基本的診療技能 ⑯研究用模型を作製するための印象を適切に採得できる。 F-3 歯と歯周組織の常態と疾患 F-3-4)-(2) 固定性義歯(橋義歯) ⑰橋義歯製作のための咬合採得に用いる材料と方法を説明できる。 F-3 歯と歯周組織の常態と疾患 F-3-4)-(3) 可撤性義歯(部分床義歯、全部床義歯) ⑱咬合採得する下顎位と咬合採得法を説明できる。	
	(4.13) 自分自身、患者さん、歯科医療チームへ適切にストレスマネジメントの原則を適用する。		コア:F-2 口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 F-2-4)-(8) 口腔・顎顔面領域の機能障害 ①咬合異常と咀嚼障害の原因と診察、検査、診断および治療方針を説明できる。 ②嚥下障害を概説できる。 ③言語障害を概説できる。 ④味覚障害を概説できる。	
	(4.14) 唾液腺機能を評価する能力を有していなければならない。		コア:F-2 口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 F-2-4)-(5) 唾液腺疾患	
	(4.15) 口腔顔面痛を評価する能力を有していなければならない。		コア:D 生命科学 D-4 病因と病態 D-4-6) 疼痛 F-2-4)-(6) 神経性疾患 F-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 ⑥歯痛の機序を説明できる。 F-4-5) 心因性疾患 ③口腔・頭蓋・顎顔面領域の心因性の痛みを説明できる。	
	(4.16) 顔面形態とその正常からの隔たりを評価する能力を有していなければならない。		コア:F-2 口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 F-2-3) 口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常 F-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 F-2-4)-(7) 口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患	
	(4.17) 患者が虐待や放置されている兆候に気づき、必要に応じて適切な法的機関に報告する能力を有していなければならない。		コア:コアカリには該当なし(歯学教授要項には「虐待」(身体的虐待、ネグレクトあり)。	

領域	領域 V: 診断と治療計画			
	Professional behavior			
大項目	A 臨床推論・判断・意志決定: 患者の社会的・文化的背景を考慮しながら、病歴、臨床・エックス線所見、および他の診断から得られた検査結果を解釈・関連づけて、鑑別診断、暫定診断、あるいは確定診断を進めるための、意志決定能力・臨床推論能力・判断能力を有する。患者のニーズと要求に見合った診断と治療計画を立案し記録することができる。自分の技能を超えるような場合には、必要に応じて専門医のオピニオンや治療をあおぐことができる。			
中項目	欧州に於ける歯科医師のコンピテンシー Competences for the European dentist	新しいアメリカの一般的な歯科医師のコンピテンシー Competencies for the new general dentist (ADEA)	新しい日本の歯科医師のコンピテンシー(資格・能力・力量など) Competency for New Japanese Dentist	② コンピテンシー(能力・手腕・力量・技量・熟練度・適任性など)
	(5.1) たえば手術などのインフォームドコンセントを得ることができる。		インフォームドコンセントを患者、両親、保護者から得る。	コア: インフォームドコンセントをおこなうことができる 国試: インフォームドコンセント(必修の基本)
(5.2) 全身疾患がある場合は、その疾患と治療が歯科治療に及ぼす影響についての知識がある。		歯科治療中に起こりうる医学的緊急事態を予期し、診断し、初期治療を行い、経過管理を行う。	コア: 必要に応じて医科に対診できる。患者に関する医療情報を他の機関に提供し、また求めることができる。F-1-3) 歯科麻酔の基本 国試: IV-3 全身管理に留意すべき全身疾患・状態 4. 歯科における全身偶発症	
(5.3) う蝕と摩耗の部位、範囲、う蝕の活動性の程度を診断できる。		頭頸部、口腔の診察をすること。臨床的、X線的、その他の診断に関する情報、処置を選択・獲得し解釈する。医科的、歯科的診察を適切な時に行う。臨床と歯科的根拠データに基づく治療立案	コア:F-3-3-(1) う蝕の症状と診断を説明できる 国試: III (1) 1, 2, 3 教要: 保存修復 う蝕の診断, う蝕の処置方針, 予防, および治療法	
(5.4) 歯と歯周組織の健康、機能や審美性を障害し、治療を必要とする歯あるいは歯周組織の解剖学的形態の異常を診断できる。			コア:F-3-2) F-3-3) 国試: 歯周疾患 教要: 歯周疾患の診断と治療方針	
(5.5) 歯髄の病態を認識し、管理が必要な状態か(治療が必要な状態か)を診断できる。			コア: F-3-3-(2) 歯髄・根尖性歯周組織疾患の診断と治療 国試: III (II) 1, 2, 3 教要: 歯内療法における診査・診断と基本術式	
(5.6) 口腔腫瘍を含む口腔粘膜疾患や病態の臨床的特徴を認識でき、治療が必要な状態かどうかを判断できる。			コア: F-2-4) 国試: IV (1) 顎・口腔領域の疾患 教要: 口腔外科分野 嚢胞、腫瘍および類似疾患 口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患	

	(5.7)顎顔面疾患、身体的、神経原性、心因性の急性、慢性の頭蓋顔面痛の臨床的特徴がわかり、治療が必要な状態を発見し診断できる。		コア：F-2-4)-(6)神経性疾患 F-4-5) 心因性疾患 国試：総論(X)-6-I,J各論V 1-F 顎関節症、口腔顔面痛 教要：神経疾患、心因性疾患
	(5.8)口腔顔面病態の原因となっている習癖を発見し、診断、予防や管理を必要とする状況を明らかにできること。		国試：各論V-2-E
	(5.8)口腔顔面病態の原因となっている習癖を発見し、診断、予防や管理を必要とする状況を明らかにできること。		国試：各論V-2-E
	(5.9)患者の審美的な要求を明らかにし、治療により改善できる程度を明らかにできる。	患者の主訴を明らかにする。患者のゴール、価値感、訴えを受け入れた一連の治療計画の立案し実施する。	国試：各論V-1-D
	(5.10)矯正学的評価ができる。		コア：F-4-1) 国試：各論II-(II)-2
	(5.11)顎関節症の診断について基本的な理解がある。		コア：F-2-4)-(4) 国試：(III)-3-M、V-1-F
	(5.12)医学的緊急事態を診断できる。	歯科治療中に起こりうる医学的緊急事態を予期し、診断し、初期治療を行い、経過管理を行う。	コア：F-1-5) 国試：(IV)-3-4
	(5.13)成人と小児の管理において、鎮静の役割についての知識がある。	痛みや不安がある患者を薬物使用せずに責任のある対応をとる。	コア：F-1-3)-(2) 国試：総論(X)-6-G
	(5.14)臨床的評価に基づいて、鎮静法や全身麻酔を必要とする患者をいつ、どこへどのように紹介(依頼)したらよいかわかる。		コア：F-1-3)-(2) 国試：(IV)-3-5-A
	(5.15)社会、民族の背景の異なる患者に対して対応ができる。	様々な社会的弱者を含めたすべての患者に対して、親身になった治療ができること	コア：A-3 教要：

領域	educate patients and manage comprehensive primary care(患者教育と包括的プライマリ・ケア)							
大項目	卒業する歯科医師は、口腔疾患の予防や治療の最新の考え方を強調し、全身および口腔の健康のメンテナンスを支援するよう患者を教育し、すべての年齢の患者の包括的プライマリ・ケアを維持することができる。							
中項目	欧州に於ける歯科医師のコンピテンシー Competences for the European dentist	新しいアメリカの一般的な歯科医師のコンピテンシー Competencies for the new general dentist (ADEA)	新しい日本の歯科医師のコンピテンシー(資格・能力・力量など) Competency for New Japanese Dentist					
			① コアカリキュラム、臨床実習、国試出題基準、教授要綱	② コンピテンシー(能力・手腕・力量・技量・熟練度・適任性など)				
大項目	卒業する歯科医師は、口腔疾患の予防や治療の最新の考え方を強調し、全身および口腔の健康のメンテナンスを支援するよう患者を教育し、すべての年齢の患者の包括的プライマリ・ケアを維持することができる。	欧州に於ける歯科医師のコンピテンシー Competences for the European dentist	新しいアメリカの一般的な歯科医師のコンピテンシー Competencies for the new general dentist (ADEA)	新しい日本の歯科医師のコンピテンシー(資格・能力・力量など) Competency for New Japanese Dentist	① コアカリキュラム、臨床実習、国試出題基準、教授要綱	② コンピテンシー(能力・手腕・力量・技量・熟練度・適任性など)		
							(6.1) ミニマル・インターベンション(最小侵襲)のコンセプトを知り、口腔のケアの包括的アプローチを行うことができる。	コア：臨実：国試：教要：
							(6.2) エビデンスに基づく治療を行うことができる。	コア：臨実：国試：教要：
							(6.3) 歯口清掃指導、局所的フッ化物処置および予防填塞ができる。	コア：臨実：国試：教要：
							(6.4) 歯科疾患の病因および予防に関し患者を教育することができ、口腔の健康に対する患者の責任を考えさせるように励ますことができる。	コア：臨実：国試：教要：
							(6.5) 歯垢の科学的抑制を含む適切な薬剤の効果を記載し、モニターすることができる。	コア：臨実：国試：教要：
							(6.6) 口腔の健康に関連した食事指導や栄養教育をすることができる。	コア：臨実：国試：教要：
							(6.7) 患者の歯口清掃の悪いところを検出し、予防し、修整するための戦略を開発することができ、患者に悪い口腔習慣を正す戦略を示すことができる。	コア：臨実：国試：教要：
(6.8) 歯の構造を保ち、硬組織疾患を予防し、何組織の健康を促進する予防や修復処置を行うことができる。	コア：臨実：国試：教要：							
大項目	卒業する歯科医師は、口腔疾患の予防や治療の最新の考え方を強調し、全身および口腔の健康のメンテナンスを支援するよう患者を教育し、すべての年齢の患者の包括的プライマリ・ケアを維持することができる。	欧州に於ける歯科医師のコンピテンシー Competences for the European dentist	新しいアメリカの一般的な歯科医師のコンピテンシー Competencies for the new general dentist (ADEA)	新しい日本の歯科医師のコンピテンシー(資格・能力・力量など) Competency for New Japanese Dentist	① コアカリキュラム、臨床実習、国試出題基準、教授要綱	② コンピテンシー(能力・手腕・力量・技量・熟練度・適任性など)		
							(6.10) 生命を脅かすことのない口腔粘膜疾患と障害の特徴と重症度に関してカウンセリングができ、現実的な選択肢と期待されるマネージメントを提供できる。	コア：F-2-2) 口腔の基本構造と機能 国試：(必)9 主要な症候 B 歯・口腔・顎・顔面の症候の捉え方 a 口腔・顎・顔面の一般症候 f 口腔粘膜の症候 C 全身疾患による主な口腔症状

	(6.11)限られた軟部組織の診断手順を実行できる。		<p>コア:F-1-4) 小手術の基本手技 一般目標: 小手術を適切に実施するために必要な基本的知識と技能を身につける。</p>	
	(6.12)生命を脅かす口腔粘膜疾患の患者の診断と適切な照会に参画できる。		<p>国試:(必)11 検査の基本 D 歯・歯周組織・口腔の検査 F 病理組織学的検査 a 細胞診 b 組織診 (総)IX 検査 1 口腔内検査・口腔機能検査 D 舌・口腔粘膜検査 3 検体検査 G 病理組織学検査、細胞診</p>	
	(6.13)患者の照会と適切な薬剤の処方を含む、急性口腔感染症のマネージメントができる。		<p>コア:F-2-4)-(7) 口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患 ①口腔・顎顔面領域に症状を現す血液疾患(貧血、出血性素因、白血病)とスクリーニング検査法 ②口腔・顎顔面領域に症状を現す感染症の種類とその症状 ③口腔・顎顔面領域に症状を現すアレルギー性疾患、膠原病、免疫不全とそれらの症状 ④口腔・顎顔面領域に症状を現す全身的な腫瘍と腫瘍類似疾患およびその症状 ⑤口腔・顎顔面領域に症状を現す症候群の種類と症状 ⑥口腔・顎顔面領域に症状を現す系統的骨疾患の症状、診断および治療法 ⑦口腔・顎顔面領域に症状を現す薬物</p> <p>国試:(必)9 主要な症候 C 全身疾患による主な口腔症状 10 診察の基本 D 口腔診察用機材 F 口腔粘膜 (各IV)顎・口腔領域の疾患 IV主として全身に関連する疾患の病態と治療 2 口腔症状を呈する疾患</p>	
	(6.14) 内科的、外科的疾患を問わず、一般的な口腔疾患の治療に熟知している。		<p>コア:F-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 【治療法については基本的な治療方針に限る。】 一般目標: 口腔・顎顔面領域の疾患の特徴と病因および診断・治療の基本的概念を理解する。 到達目標: F-2-4)-(2) 炎症とアレルギー * ①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 * ②菌性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。 * ③急性炎症と慢性炎症の異同を説明できる。 * ④炎症の診断に必要な検査法を説明できる。 * ⑤口腔・顎顔面領域の特異性炎の種類と特徴を説明できる。 * ⑥菌血症および菌性病巣感染の病態を説明</p> <p>* ⑨水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする主な粘膜疾患を概説できる。 ⑩菌性病巣感染の成立機序、症状、検査法および治療法を説明できる。 ⑪消炎手術を概説できる。</p> <p>国試:(必)14 主要な疾患の病因・病態 A 疾患の概念 d 炎症 e 感染症 f 嚢胞 k 細胞・組織の障害 B 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 h 炎症性疾患 i 嚢胞 j 腫瘍、腫瘍類似疾患 l 口腔粘膜疾患 n 口腔に症状を現す血液疾患・出血性素因 (総)(VI)病因・病態 5 炎症 6 感染症、アレルギー、免疫疾患 7 腫瘍</p>	
	(6.14) 内科的、外科的疾患を問わず、一般的な口腔疾患の治療に熟知している。		<p>コア:F-2-4)-(3) 嚢胞、腫瘍および類似疾患 * ③軟組織に発生する嚢胞の種類と特徴を列挙できる。 * ④口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の一般的な症状、診断法および治療法を概説できる。 * ⑥非歯原性良性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。 * ⑦口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の一般的な症状、診断法(組織診、画像診断)および治療法を概説できる。 * ⑧エナメル上皮腫の特徴、症状および治療法を概説できる。 * ⑨前癌病変(白板症、紅板症)の特徴、症状および治療法を概説できる。 * ⑩前癌状態の種類と特徴を列挙できる</p>	

			国試:(総)(VI)病因・病態 8 疼痛 E 口腔・顔面領域の疼痛 11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 C 口腔粘膜の疾患 (総)(VII)主要症候 2歯・口腔・顎・顔面の症候 D 口腔粘膜 (各II)成長発育に関連した疾患・病態 (I) 成長発育段階における異常 1 歯・口腔・顎・顔面の発育を障害する先天性疾患(一部) 2 小児の歯・口腔・顎疾患(一部) (各IV) 顎・口腔領域の疾患 (I) 主として軟組織に関連する疾患の病態と治療 2 軟組織の損傷 3 軟組織の炎症 4 軟組織に発生する	
	(6.15)タバコの口腔粘膜に対する影響に関する知識と、禁煙を希望する患者を助ける方法に関する知識を持つ。		コア: 臨実: 国試: 教要:	

領域	periodontal management (歯周管理)			
大項目	新しい歯科大学卒業生は、すべての年齢の患者の歯周疾患を管理することができなければいけない。			
中項目	欧州に於ける歯科医師のコンピテンシー Competences for the European dentist	新しいアメリカの一般的な歯科医師のコンピテンシー Competencies for the new general dentist (ADEA)	新しい日本の歯科医師のコンピテンシー(資格・能力・力量など) Competency for New Japanese Dentist	
			① コアカリキュラム、臨床実習、国試出題基準、教授要綱	② コンピテンシー(能力・手腕・力量・技量・熟練度・適任性など)
	(6.16) 診断、予後の判定を確立し、治療計画を定型化するために歯周組織を評価することができる。		コア: 臨実: 国試: 教要:	
	(6.17) 歯周疾患の病因に関して患者に教育することができ、口腔の健康の責任を考えさせるように励ますことができる。		コア: 臨実: 国試: 教要:	
	(6.18) 歯周を健康にする適切な歯口清掃指導を患者に行うことができる。		コア: 臨実: 国試: 教要:	
	(6.19) 電動および手用の道具を使用し、歯肉縁上および縁下のスクレーピング根面研磨、さらに着色除去および予防ができる。		コア: 臨実: 国試: 教要:	
	(6.20) 修飾(第二の)歯周病原因子を知っている。		コア: 臨実: 国試: 教要:	
	(6.21) 高度な歯周外科手法および特別ケアを委託する適切な方法の必要度を診断、説明および議論することができる。		コア: 臨実: 国試: 教要:	
	(6.22) 歯周処置の結果を評価し、リスク因子を含むメンテナンス・プログラムを作成しモニターすることができる。		コア: 臨実: 国試: 教要:	

コアカリキュラム: 歯学教育モデル・コア・カリキュラム ー教育内容ガイドラインー 平成19年度改訂版

臨床実習内容: 歯学教育モデル・コア・カリキュラム ー教育内容ガイドラインー 平成19年度改訂版、臨床実習内容

国試出題基準: 平成22年度歯科医師国家試験出題基準

教授要綱: 歯科大学長・歯学部長会議: 歯科医学教授要綱(平成19年改訂)

領域	主な能力: 齶蝕と歯髄治療(保護)のマネージメント			
大項目	新しく卒業する歯科医師は、あらゆる年齢層の患者さんの齶蝕、歯髄および歯根部の障害をマネージメントする能力がなければならない。			
中項目	欧州に於ける歯科医師のコンピテンシー Competences for the European dentist	新しいアメリカの一般的な歯科医師のコンピテンシー Competencies for the new general dentist (ADEA)	新しい日本の歯科医師のコンピテンシー(資格・能力・力量など) Competency for New Japanese Dentist	
			① コアカリキュラム、臨床実習、国試出題基準、教授要綱	② コンピテンシー(能力・手腕・力量・技量・熟練度・適任性など)
	(6.23) 患者さんの齶蝕のリスクを評価できることや齶蝕予防手段の実施できる。		コア: 臨実: 国試: 教要:	
	(6.24) 齶蝕の歯組織を除去し、歯髄の生活力を維持し、適切な材料を用いてその形態、機能、審美性を復元し、硬組織疾患を予防し、軟組織の健康を増進する。		コア: 臨実: 国試: 教要:	
	(6.25) 歯髄の防御機構を維持するように設計された治療方法を実施できる。		コア: 臨実: 国試: 教要:	
	(6.26) 複雑でない(簡単な)単根および複数根の歯内療法が実施できる。		コア: 臨実: 国試: 教要:	
	(6.27) 外科的および複雑な非外科的根管治療の必要性を認識できること、そして適切な行動がとれる。		コア: 臨実: 国試: 教要:	

領域	健康な口腔の確立と維持			
大項目	外科手術 卒業時に歯科医は抜歯、必要に応じて残根除去、軽度の軟組織手術を含む、全ての年齢の患者の硬組織ならびに軟組織における単純な外科的手術による復元が必要な治療と管理ができなければならない。さらに、治療において適切な薬物療法もできなければならない。新しく卒業する歯科医師は、あらゆる年齢層の患者さんの齶蝕、歯髄および歯根部の障害をマネジメントする能力がなければならない。			
中項目	欧州に於ける歯科医師のコンピテンシー Competences for the European dentist	新しいアメリカの一般的な歯科医師のコンピテンシー Competencies for the new general dentist (ADEA)	新しい日本の歯科医師のコンピテンシー(資格・能力・力量など) Competency for New Japanese Dentist	
			① コアカリキュラム、臨床実習、国試出題基準、教授要綱	② コンピテンシー(能力・手腕・力量・技量・熟練度・適任性など)
(6.28) 卒業時に歯科医は萌出した歯の単純抜歯ができなければならない。		6.1 幼児、小児、青年、成人、ならびに独特な必要性のある女性、高齢者、および特別な必要性のある患者の口腔健康ケアを管理する。 6.2 外傷、口腔疾患、およびその他の疾患の予防、診断、管理を行う。	コアカリキュラム・臨床実習内容・国試出題基準・教授要綱 臨実:水準1, 2 国試:必修X-5手術基本手技 教要:	卒業時に歯科医は単純抜歯(単純と難抜歯の境界は難しいが)ができなければならない。
(6.29) 卒業時に歯科医は乳歯と永久歯の外傷の処置に関する知識を持っており、上顎顔面の外傷の処置について外科的処置あるいは非外科的処置について詳しくなければならない。		6.16 卒業生は口腔外科的処置の必要性を診断し管理することができる。 6.17 卒業生は以下および歯科非常時の予防、認知、および管理ができなくてはならない。 6.21 口腔粘膜および骨性疾患を診断し、確認し、管理できなければならない。	コア:F-2-4)口腔・顎顔面領域の疾患 臨実: 国試:各論IV-(II)-2歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷 教要:	卒業時に歯科医は外傷の診察、対応、一次応急処置の補助ができなければならない。 卒業時に歯科医は応急処置として外傷の止血操作ができなければならない。 卒業時に歯科医は外来手術の説明、準備、管理がで、確実な縫合処置ができなければならない。
(6.30) 卒業時に歯科医は複雑でない未萌出歯の抜歯、複雑でない破折したまたは残存歯根の除去を行えなければならない。			コア:F-1-4)小手術の基本手技 臨実:水準3 国試:必修X-5手術基本手技 教要:	卒業時に歯科医は複雑でない補綴前外科処置をできなければならない。
(6.31) 卒業時に歯科医は複雑でない補綴前外科処置を行うことができない。			コア: 臨実: 国試:各論IV-(II)-5-J-c顎顔面補綴 教要:	
(6.32) 卒業時に歯科医はよくみられる術中および術後の合併症の管理および治療を行えなければならない。			コア:F-1-3)-(1)全身管理, F-1-5)救急処置 臨実: 国試:各論IV-(IV)-4歯科における全身偶発症 教要:	卒業時に歯科医はよくみられる術中および術後の合併症の管理および治療を行えなければならない。
(6.33) 卒業時に歯科医はオッセオインテグレートッドインプラント体の外科的埋入における適応、禁忌、原理、および手技を述べるべきでなければならない。			コア:F-3-4)-(4)デンタルインプラント 臨実: 国試:各論IV-(II)-5-J-d顎顔面インプラント治療 教要:	卒業時に歯科医はオッセオインテグレートッドインプラント体の外科的埋入における適応、禁忌、原理、および手技を述べるべきでなければならない。

領域	疼痛および不安の管理			
大項目	卒業時に歯科医は口腔顔面痛、不快感、精神的悩みを制御するための適切な手技に精通していなければならない。			
中項目	欧州に於ける歯科医師のコンピテンシー Competences for the European dentist	新しいアメリカの一般的な歯科医師のコンピテンシー Competencies for the new general dentist (ADEA)	新しい日本の歯科医師のコンピテンシー(資格・能力・力量など) Competency for New Japanese Dentist	
			① コアカリキュラム、臨床実習、国試出題基準、教授要綱	② コンピテンシー(能力・手腕・力量・技量・熟練度・適任性など)
(6.34) 卒業時に歯科医師は修復処置、外科処置等の口腔における浸潤麻酔および伝達麻酔ができなければならない。また必要に応じ、局所麻酔によるおこりやすい合併症を含む口腔顔面痛の処置ができなければならない。		6.8 卒業生は歯科患者の疼痛および不安の予防、診断、および管理ができなくてはならない。	コア:F-1-3)歯科麻酔の基本F-1-3)-(3)局所麻酔法 臨実:水準1, 2 国試:必修X-6麻酔、緩和医療 教要:	卒業時に歯科医は健康な患者の局所麻酔(浸潤麻酔、伝達麻酔)ができなければならない。

	(6.35) 卒業時に歯科医師は口腔顔面痛の診断ができ、適切に処置ができ、また適切な専門家に患者を紹介することができる。		コア:F-1-1)基本的診療技能	卒業時に歯科医は医科に対診の手続きができなければならない。
			臨実:	
			国試: 必修X-6麻酔、緩和医療	
			教要:	
	(6.36) 卒業時に歯科医師は歯科治療で吸入および静脈内意識下鎮静法に関する知識をもっていなければならない。		コア:F-1-3)歯科麻酔の基本F-1-3)-(2)精神鎮静法	卒業時に歯科医師は歯科治療で吸入および静脈内意識下鎮静法に関する知識をもっていなければならない。
	臨実:			
	国試: 必修X-6麻酔、緩和医療			
	教要:			
	(6.37) 卒業時に歯科医師は術前、術中、術後痛および不安の管理に使用する薬物の選択と処方ができなければならない。		コア:F-1-3)歯科麻酔の基本F-1-3)-(1)全身管理	卒業時に歯科医は抜歯、外来手術に対しての処方ができなければならない。
	臨実: 水準3			
	国試: 必修X-4患者管理, 必修X-6麻酔、緩和医療			
	教要:			
	(6.38) 卒業時に歯科医師は歯科恐怖および不安の原因と継続について確認することができ、行動療法によってこの歯科恐怖および不安を管理することができなければならない。		コア:F-4-5)心因性疾患	
	臨実: 水準3、4			
	国試: 必修X-6麻酔、緩和医療			
	教要:			

コアカリキュラム: 歯学教育モデル・コア・カリキュラム ー教育内容ガイドラインー 平成19年度改訂版

臨床実習内容: 歯学教育モデル・コア・カリキュラム ー教育内容ガイドラインー 平成19年度改訂版、臨床実習内容

国試出題基準: 平成22年度歯科医師国家試験出題基準

教授要綱: 歯科大学長・歯学部長会議: 歯科医学教授要綱(平成19年改訂)

領域	矯正治療			
大項目	新卒業生は、すべての年齢の患者に、損傷および/あるいは欠損歯を適切な形状、機能および審美に修復できなければならない			
中項目	欧州に於ける歯科医師のコンピテンシー Competences for the European dentist	新しいアメリカの一般的な歯科医師のコンピテンシー Competencies for the new general dentist (ADEA)	新しい日本の歯科医師のコンピテンシー(資格・能力・力量など) Competency for New Japanese Dentist	
			① コアカリキュラム、臨床実習、国試出題基準、教授要綱	② コンピテンシー(能力・手腕・力量・技量・熟練度・適任性など)
	(6.39) 修復、前歯および臼歯クラウン、ポストクラウン、単純なブリッジ、総および部分義歯および咬合スプリントをデザインし、その国の歯科医療に相当するよういくつかの手段を行うことができる。		コア: 臨実: 国試: 教要:	
	(6.40) デザイン、およびクラウン、ブリッジ、部分および総義歯の製作の知識および経験があり、これら修復物のチェアーサイドでの調整を適切にできる。		コア: 臨実: 国試: 教要:	
	(6.41) 患者の願望と終末の修復結果との相違を含む審美的処置の考え方および技術を患者に記述して伝えることができる。		コア: 臨実: 国試: 教要:	
	(6.42) 修復にオステオインテグレイトのインプラント使用することを含む考え方および技術を患者に記述して伝えることができる。		コア: 臨実: 国試: 教要:	
	(6.43) 歯科医療技術の可能性と限界(リスクと利益)および歯の修復に用いる材料の操作に通じている。		コア: 臨実: 国試: 教要:	
	(6.44) 歯科矯正あるいは顎顔面の高頻度処置を含む歯列顔面の異常の治療の原則を知っている。		コア: 臨実: 国試: 教要:	
	(6.45) 矯正治療の必要性を診断することができ、最新の治療法に精通している。		コア: 臨実: 国試: 教要:	
	(6.46) 保障装置を設計し、装着して、調整することができ、単一の歯を動かすか、またはクロスバイトを矯正するアクティブな可撤性装置を設計し、装着して、調整することができる。		コア: 臨実: 国試: 教要:	
	(6.47) 必要に応じて紹介することを含み、適切にすべての場合の歯科矯正に関する非常状態に対応することができる。		コア: 臨実: 国試: 教要:	
	(6.48) 不正咬合を悪化させる可能性のある有害な口腔習慣を発見することができ、必要に応じて、患者教育、トレーニング、および器具療法でそれらの進行を防ぐことができる。		コア: 臨実: 国試: 教要:	

領域	救急処置			
大項目	卒業する歯科医師は、一般歯科診療で遭遇する医科的および歯科の緊急事態全般について、防止し対処する能力を有しなければならない。			
中項目	欧州に於ける歯科医師のコンピテンシー Competences for the European dentist	新しいアメリカの一般的な歯科医師のコンピテンシー Competencies for the new general dentist (ADEA)	新しい日本の歯科医師のコンピテンシー(資格・能力・力量など) Competency for New Japanese Dentist	
			① コアカリキュラム、臨床実習、国試出題基準、教授要綱	② コンピテンシー(能力・手腕・力量・技量・熟練度・適任性など)
	(6.49) 歯科外科における歯科のおよび医科的な緊急事態を防止するための効果的な戦略の策定と実施の能力を有しなくてはならない。そして、起こった場合、それらの緊急事態をマネージメントするための方針を確立する能力を有していなくてはならない。		コア:A 医の原則 A-5 歯科医療における安全性への配慮と危機管理 A-5-1) 安全性の確保 A-5-2) 医療上の事故等への対処と予防	
	(6.50) 蘇生術と心停止、アナフィラキシー反応、上気道閉塞、虚脱、血管迷走神経発作、てんかん発作、出血、異物の吸入や摂取、低血糖と糖尿病性昏睡、あるいは歯科治療の過程で起こり得る他の医科的緊急事態の即時の適切なマネージメントを実行する能力を有しなくてはならない。		コア:F 臨床歯学教育 F-1 診療の基本 F-1-5) 救急処置	
	(6.51) 歯髓性、歯周性あるいは外傷性を含む歯科緊急事態を識別し、マネージメントする能力を有しなくてはならない。		コア:F-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 F-2-4)-(1) 外傷 F-3 歯と歯周組織の常態と疾患 F-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 F-4 歯科医療の展開 F-4-2) 小児の歯科治療 F-4 歯科医療の展開 F-4-3) 高齢者の歯科治療 F-4-4) 障害者の歯科治療	
	(6.52) 一般歯科医によるマネージメント範囲を超える歯科的、医科的緊急事態を識別し、そして迅速に紹介する能力を有していなければならない。		コア:F 臨床歯学教育 F-1 診療の基本 F-1-5) 救急処置 B-2 対人関係能力 B-2-2) 医療面接	

領域	領域 VII:ヘルスプロモーション			
大項目	Professional behavior			
大項目	主な能力:その地域の個人、家族や集団の口腔の健康をより良く(改善)する。 新しく卒業する歯科医師は、その地域の個人、家族や集団の口腔の健康をより良く(改善)する能力もたなければならない。			
中項目	欧州に於ける歯科医師のコンピテンシー Competences for the European dentist	新しいアメリカの一般的な歯科医師のコンピテンシー Competencies for the new general dentist (ADEA)	新しい日本の歯科医師のコンピテンシー(資格・能力・力量など) Competency for New Japanese Dentist	
			① コアカリキュラム、臨床実習、国試出題基準、教授要綱	② コンピテンシー(能力・手腕・力量・技量・熟練度・適任性など)
	(7.1) ヘルスプロモーションと疾病予防の原則を適用する。		コア: 臨実:国試: 教要:	
	(7.2) その地域と病院サービスにおけるヘルス・ケアの組織化(オーガナオゼーション)と法規の知識をもたなければならない。		コア: 臨実:国試: 教要:	
	(7.3) オーラルヘルス・ケア(oral health care)と口腔疾患に影響を与える口腔の健康、栄養、全身の健康、薬や疾患の間の複雑な相互作用を理解する能力をもつ。		コア: 臨実:国試: 教要:	
	(7.4) その歯科医師が研修および診療を行う国の、共通に比較できる歯や歯周組織の状態の有病率の知識をもつ。		コア: 臨実:国試: 教要:	
	(7.5) 地域ベースの予防対策の重要性の知識をもつ。		コア: 臨実:国試: 教要:	
	(7.6) 健康あるいは疾患に影響を与える社会的、文化的および環境的要因の知識をもつ。		コア: 臨実:国試: 教要:	